

# 北信

## 19市町村から24人派遣 先行14人着任式

### 長野市災害対応 県内外から応援



着任式に臨む他市町村からの派遣職員たち=2日、長野市

長野市は台風19号災害に対応するため、3月末までの間、県内外の計19市町村から職員24人の派遣を受ける。浸水家屋の公費解体や土砂撤去、仮設住宅関連などの業務を担ってもらう。2日、市役所で着任式があり、先行して14人の受け入れが始まった。

本市、飯田市など9市町村、中部地方からは富山、石川、福井、岐阜、愛知5県の10市が応じた。長野市は保健福祉、環境、農林、建設の各部に配属する。着任式で加藤久雄市長は「多難な状況だが、力を

いただき心強い。災害を少しずつ乗り越っていきたく」と述べた。愛知県一宮市清掃対策課の岩田将悟さん(21)は、災害ごみ撤去などを担う長野市環境部廃棄物対策課へ。「災害対応は初めてだが、これまでの経験を、迅速な対応に少しでも生かしたい」と話した。市職員課によると、来年度

も県内外の市町村に職員派遣を依頼する予定という。一方、市企画課によると、「中核市災害相互応援協定」に基づいて6日まで、豊田、富山両市など29市の延べ2292人が長野市内で活動。個別に同様の協定を結んでいる県内外14市町村からも、6日までに延べ1502人の応援を受けている。

## 長野市の災害ごみ指定仮置き場受け入れ 赤沼公園 15日までで中止

長野市は2日、台風19号のた。千曲川決壊現場に近い唯一の指定仮置き場だが、市は災害ごみを年内に撤去するた「どこかで区切りをつける必要がある(廃棄物対策課)としている。

赤沼公園は当初、市民設置の仮置き場だった。自衛隊によるごみ搬出の終了後、市が必要がある(廃棄物対策課)としている。

## 心身のケア 仮設住宅でも 保健師定期訪問開始へ

長野市保健所は12月、台風19号による被災者の心身のケアを継続するため、応急仮設住宅などを保健師が定期的に訪ねる事業を始める。今後の避難所の統合、閉鎖などで被災者の居場所が一層散らばり、ケアが難しくなる懸念もある中、被災者が新たな環境で不安を強めたり孤立したりしないようにする狙い。各種相談の機会なども計画する。

市内4カ所の建設型応急仮設住宅へは1日に入居が始まった。市保健所によると、入居者数などの状況をみながら今後、各住宅に決まった保健師が月1回程度訪ねる活動を始める。開始時期は未定。市や県の公営住宅、民間アパートなどを活

### 長野市保健所「建設型」対象に 各種の相談も計画

用する借り上げ型応急仮設住宅(みなし仮設住宅)の被災者、浸水被害のあった自宅を暮らす「在宅避難者」らには、市の各保健センターの保健師が訪問などで相談に応じるとしている。

市保健所は災害発生後から、市や県内外の保健師と避難所を巡回。浸水した住宅も11月7日までに3834世帯を訪問し、持病がある被災者などの115人は再訪問などで様子を確かめてきた。同保健所は「被災者が孤独にならないよう、体の調子の変化などをみていきたい」(健康課)としている。

市保健所はまた、年明けをめどに、精神科医による心の相談も被災地近くの会場で開催予定。他に、精神科医、弁護士、社会福祉士、保健師が1カ所で各種相談に応じる総合相談会も、県と共催する予定で準備中という。



災害ごみの受け入れを15日までで中止する長野市の赤沼公園=2日

業務を引き継ぎ、11月22日から市指定としていた。市廃棄物対策課によると、休日には500台以上の車が搬入しているが、年内に災害ごみを郊外の仮置き場に運んで撤去するため、重点的に搬出する必要があると判断。国や県と協議し、地元区長などにも説明をした上で中止を決めた。

災害ごみを巡っては、政府が被災者の生活再建に向けて決めた対策パッケージで「年内をめどに生活圏内からの撤去を目指す」としていた。

市は現在、赤沼公園と、アクアパル千曲(真島町真島)を仮置き場に指定している。災害後、他に3カ所を設けたが2カ所ですでに受け入れを止め、2日からは篠ノ井運動場でも休止。富山県、愛知県の業者が処理するため、これらの搬出などを進めている。

被災地では地区住民が独自に設けた仮置き場も減りつつあり、市は、これらも年内の解消を目指すとしている。



浸水し、床板を剥がした関さんの自宅1階。見つめる先に、被災するまで電動ベッドが置いてあった＝11月27日、長野市穂保

# 継続支援が必要な被災者115人

# 被災家屋の高齢者募る不安

台風19号で被災した長野市東北部で、介護や生活援助が必要なお年寄りたちが、今も被災家屋で暮らしている。市によると、市内の被災地で継続支援が必要なお年寄りは11月9日時点で115人。階段の上り下りが難しい人も多くみられるが、一帯では大半の家が1階が浸水した。2階を生活拠点にせざるを得ず、息を切らしながらはうように階段を上り下りし、外出を敬遠しがちになっている人もいる。

## ルポ 千曲川氾濫

### 「引きこもり、心身弱ってしまわないか」

長野市穂保の関賢造さん(81)は数年前から病気を繰り返すよう電動ベッドを借りて置いている。足腰が弱くなった後、2階は物置代わりで市内で暮らす(77)と暮らす自宅1階に、娘が帰ってきたときに使うく



台風19号で被災した長野市長沼地区の成人式が来年1月2日、同市古里地区と合同で古里総合市民センターで開催されることになった。当初会場に予定した長沼交流センターが浸水。開催を危ぶむ声もあったが、「こんなときだからこそ」と中学校が同じ古里地区との合同開催に。9月に発送した、災害前に戻って来つつあった出欠確認の用紙は流された。再度発送し、今月6日まで受け付ける。

## 予定会場浸水の長野市長沼 成人式 隣の地区と合同開催へ 来年1月「こんなときだからこそ」

自治協議会の役員は当初、開催できるか心配したが、「一生に一度の晴れ舞台。こんなときだから、成人式だけは開こう」と決定。出欠案内を11月初めに再発送した。

台風19号の影響で床上1・3階以上浸水した長野市豊野支所が2日、約1ヵ月半ぶりに通常業務を再開した。台風以降、罹災証明書の申請などの災害支援業務を除き、機能が停止していた。庁舎3階に機能を移して戸籍や障害福祉支援といった各種手続きが利用可能になり、朝から住民が続々と訪れ、手続きをした。

## 長野市豊野支所が再開 1ヵ月半ぶりに通常業務



庁舎3階で業務を再開した豊野支所。地元的女性(右)が早速訪れ、手続きをした＝2日午前10時9分、長野市豊野町

らだった。今は1階で食事をする以外、ほとんどは2階で寝ているが、階段を上らなければならぬ。両手を使っている世帯では「環境の変化で、下ろすときつような表情を浮かべ、目をつむった。」

宅避難者」を市や県内外の保健師が巡回。市は今後も定期的に訪問するなど支援を続けるが、こうしたお年寄りの体調が悪化しないか」と不安も漏れる。

(佐藤勝、黒岩美怜)